

# 平成26年度(基盤研究(S))研究概要(採択時)

## 【基盤研究(S)】

### 人文社会系(社会科学)



## 研究課題名 グローバル社会変動下のリスクと暮らし：先端マイクロ計量経済学を用いた実証・政策研究

東京大学・大学院経済学研究科・教授 さわだ やすゆき  
澤田 康幸

研究課題番号：26220502 研究者番号：40322078

研究分野：社会科学

キーワード：経済発展論

### 【研究の背景・目的】

現代のグローバル社会は、先進国の超高齢化による「人口オーナス」の問題が急速に顕在化する一方、「人口ボーナス」を享受する発展途上国が次々と先進国経済にキャッチアップすることで、大きく変動している。本研究では、こうしたグローバル社会の変動を、高齢化リスク・災害リスク・貧困リスクという三大リスクの視点から分析する。

日本と途上国における緻密なマイクロデータの収集・データベース構築と先端的な計量経済学を用いた政策分析とを統合することで、人口高齢化先進国・防災先進国であり、第二次大戦後の貧困から脱却した日本の知見を学術研究に基づいたエビデンスとして蓄積し国際公共財とすること、人口ボーナスを享受する発展途上国におけるリスクと暮らしの関係についての新たなエビデンスを蓄積することが目的である。

### 【研究の方法】

第一に、中高年個人を追跡調査するパネルデータ構築として複数都市で「暮らしと健康の調査(JSTAR)」を実施するとともに、その国際比較を行うことで、日本の超高齢化の経験を明らかにする。

第二には、JSTAR 調査とともに、福島県・宮城県・岩手県の被災地調査を拡張する。さらに代表者らが過去に実施した日本や諸外国での災害調査を継続・比較することで、防災先進国である日本の災害後の生活復興経験を学術研究に基づいたエビデンスとして蓄積することである。

第三には、バングラデシュなど発展途上国におけるフィールド調査・フィールド実験を継続・拡大し、人口ボーナスを享受する発展途上国において、ボーナスの渦中にある若年層が直面するリスクと暮らしの関係についての新たなエビデンスを蓄積する。

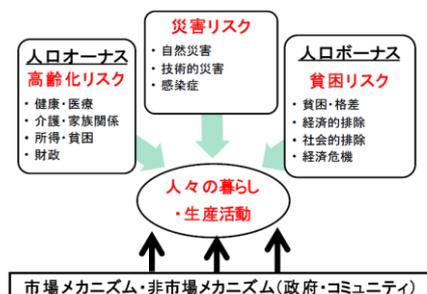


図1 本研究の概念図

### 【期待される成果と意義】

高齢化リスクについては、JSTARの一環として、中高年個人の暮らしを追跡調査するパネルデータ構築を継続、日本の超高齢化の軌跡とリスクに関するエビデンスを蓄積する。最先端の構造推定手法・社会実験などを用い、日本の経験を緻密に体系化し有効な施策につなげる。その上で、韓国(KLoSA)・中国(CHARLS)との高齢化のアジア国際比較を実施し、得られた知見を国際公共財にする。

災害リスクについては、マイクロ調査から、大災害が生み出す暮らしへの影響と被災後の生活再建の姿を緻密に明らかにし、政策効果を検証する。そのことを通じて、インデックス型等新しい形の保険や支援助物資のマッチングメカニズムなど先進的な保険・リスクシェアリングメカニズムの開発に貢献する。

途上国の「人口ボーナス」・貧困リスクについては、フィールド調査・フィールド実験を通じて、社会的包摂(social inclusion)、特に金融的包摂(financial inclusion)の役割を明らかにし、より効果的なマイクロファイナンスプログラムやマイクロ開発プログラムの構築に貢献する。

### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- 澤田 康幸(編)『巨大災害・リスクと経済』シリーズ現代経済研究 日本経済新聞出版社。
- Yasuyuki Sawada and Satoshi Shimizutani (2008) "How Do People Cope With Natural Disasters? Evidence from the Great Hanshin-Awaji (Kobe) Earthquake," Journal of Money, Credit, and Banking 40, 463-488.
- Jeong-Joon Lee and Yasuyuki Sawada (2010) "Precautionary Saving under Liquidity Constraints: Evidence from Rural Pakistan," Journal of Development Economics 91, 77-86.
- Yasuyuki Sawada, Kazumitsu Nawata, Masako Ii, and Mark J. Lee (2011) "Did the Financial Crisis in Japan Affect Household Welfare Seriously?" Journal of Money, Credit, and Banking 43, 297-324, 2011.

### 【研究期間と研究経費】

平成26年度-30年度  
150,200千円

### 【ホームページ等】

<https://sites.google.com/site/yasuyukisawadapage/home>